

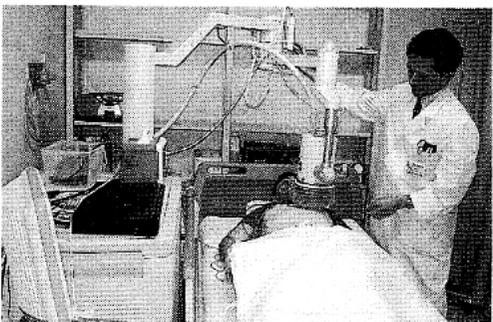
衝撃波で狭心症治療

東北大開発 痛み無く手術不要

東北大病院（仙台市青葉区）は9日、狭心症の患者に体外から低出力の衝撃波を当てる新しい治療法「写真Ⅱを開発したと発表した。手術でも治療が難しかった狭心症が、苦痛なく治療できる可能性が開けた。今秋から50人の患者に治療を行う。

循環器内科の下川宏明教授が中心となり、スイスの医療機器メーカーと共同で新しい治療機器を開発した。弱い衝撃波を心臓の大動脈が狭くなった部分に当てると、その衝撃が引き金となって周囲に細かい血管が作られ、心臓の血流が改善する。衝撃波を体外から当てる治療は尿管結石などで広く行われている。

2回にわたり計17人の狭心症患者に臨床試験を行ったところ、狭心症の重症度



が大きく下がったほか、発作用の治療薬がほとんどの患者で不要になった。

衝撃波は1回につき200発を50か所に当て、それを1日おきに3回繰り返す。1回3時間ほどかかるが、治療前に麻酔などとも必要なく、痛みもまったくないため寝ていれば済む。

この治療は、厚生労働相が指定する「高度医療」に今月1日付で承認された。

2010年7月10日 読売新聞

これにより、現在は保険外で26万5500円かかるが、将来は公的医療保険の適用が期待される。

下川教授は「衝撃波はほとんど負担がなく、手術などに耐えられない人にもできる」と話している。

この記事・写真等は、読売新聞社の許諾を得て転載しています。無断で複製、送信、出版、頒布、翻訳、翻案等著作権を侵害する一切の行為を禁止します。読売新聞社の著作物について（<http://www.yomiuri.co.jp/policy/copyright/>）